ninoyu satoshi
発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ケイハンシティビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字：栢木寛照

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

えとす

平成17年 No.169 6月号

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

郵政事業懇話会、最多の108人が参加

勢いづく民営化反対陣営

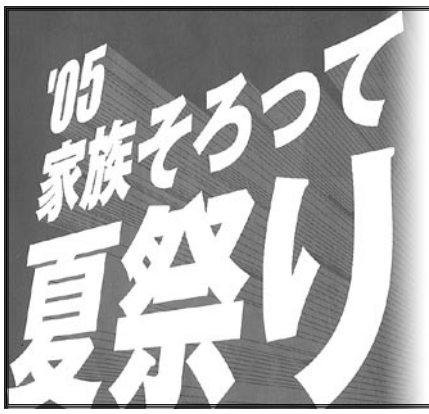
6月7日、自民党本部で、郵政民営化に反対する議員が作る勉強会「郵政事業懇話会」が開催され、衆議院本会議前の忙しい日程の中にもかかわらず、衆参合わせて108名の国会議員と代理の秘書50名が参加した。

冒頭、会長の綿貫民輔前衆議院議長が挨拶し、「公社のままでの改革を基本方針とする『日本郵政公社改革法案』を6月3日衆院に提出した(後日、受理されないことに決まった)。議論の場は、党内から国会へ移ったから、国民によく見える所で、この対案を踏まえ、地方の声を反映させるようにしっかりと議論したい。党内手続き上、法案賛成の党議拘束もかかっていない」と述べ、民営化反対の姿勢を貫くことを表明した。続いて、「郵政改革は、多くの課題の一つに過ぎない。他にも、社会福祉・文教・外交と、取り組むべき課題は多い。政府は、一時も政治的な空白を作るべきではない」と述べ、仮に法案が否決されても、小泉首相は衆議院を解散すべきではないという認識を示した。

その後出席者からは、「本気で民営化反対なら、覚悟を署名で示すべきだ」、「郵政大臣経験者として、特別委員会に参考人として出席し、反対意見を述べたい」などの意見が相次ぎ、強硬な姿勢を崩さない議員は少なくない。その一方で、「郵政三事業一体で取り組むなら、少し事情は変わってくる」と述べるなど、法案の修正次第では民営化でも構わないという立場の議員もおり、政府案に反対の議員にも温度差があるのが現状だ。

参加者全員が採決で反対するとは考えにくいが、法案は、衆議院では46人、参議院では18人の反対で否決される計算であり、小泉総理の自信とは裏腹に、情勢はやはり依然として厳しいと言える。

挨拶する綿貫郵政事業懇話会会長



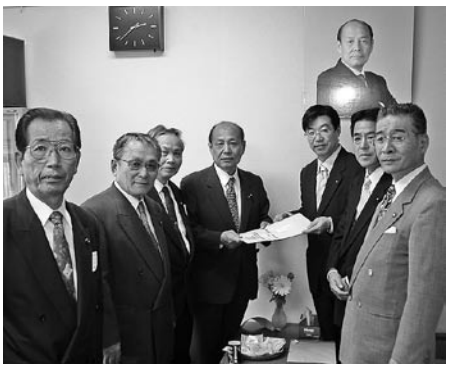
恒例の納涼総会を、今年はホテルグランヴィア京都で行います。
夏休みのひととき、二ノ湯議員を囲み、お子様も交えながら、お楽しみください。
ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。

日　時：8月2日㈫　16:00～21:00
場　所：ホテルグランヴィア京都(JR京都駅ビル内)　**3階宴会場**
お一人様　5,000円(入場料、会場内ご利用券)
詳細はチラシをご覧下さい。

お問い合わせ：二ノ湯さとし京都事務所
お申し込み先：TEL 075-315-2228　FAX 075-315-2310

地方分権改革推進へ地方六団体決起大会

山田知事ら、国会議員に支援を要望


山田知事から要望書を受け取る二ノ湯議員

6月1日、全国知事会など地方六団体は、国と地方の三位一体改革の推進を求め、「分権改革日本」全国大会を開催した。

当日は、全国から知事、市町村長や地方議会議長・議員ら約八千人が参加し、二ノ湯智参議院議員も来賓として出席した。

大会では、政府が6月内にもまとめる「骨太の方針２００５」に地方側の主張を反映させるよう働きかける方針を確認し、①地方案に沿った3兆円規模の税源移譲の実現、②平成17年度地方交付税の総額の確保、③地方財政自立に向け、19年度以降も改革の継続、④政府と地方団体が直接話し合う「国と地方の協議の場」の制度化、などを求めていく決議を採択した。

その後、大会に出席した山田啓二知事や田坂幾太府議会議長をはじめ、府内の首長・議長らは議員会館を訪れ、二ノ湯議員に対し、一層の地方分権改革の推進への支援・協力を求め、要望書を手渡した。

これまで京都市議、全国市議会議長会会長(現在は顧問)を務めてきた二ノ湯議員は、昨年の参院選においても、「地方主権の推進」を公約の柱のひとつに掲げており、地域のニーズに応じて多様で個性的な住民サービスを提供できるよう地方分権推進への熱意は並々ならぬものがある。

そうした中、現在の国と地方との間でなかなか調整のつかない三位一体改革の現状について、二ノ湯議員は、「地方分権改革を妨げているのは、地方への影響力低下を心配する中央省庁だけではない。国会議員の中でも、地方分権が進めば、知事などの影響力が強まり、相対的に地元における国会議員の地位の低下を招くのではないかと危惧している人もいる」ことにも触れ、地方分権改革推進を妨げる中央の抵抗の大きさにも言及した。山田知事は、「国の財政再建のため、生活保護費の国庫負担率の引き下げや税源移譲を伴わない国庫補助負担金の廃止など、「三位一体改革」の名を借りた地方への負担の押し付けは断固として受け入れることはできない」と訴えた。また、「現在、地方が追い詰められているこの状況では、地方が一致結束してこの難局に当たらなければならない」と語り、二ノ湯議員に対し、さらなる支援協力を依頼した。

なお、当日の事務所は、京都からの来客がひっきりなしに訪れ、事務所から訪問者が溢れんばかりの大盛況であった。

京都市が進める教育改革の現場

二ノ湯議員が現地視察

二ノ湯智参議院議員は、京都市が現在進める教育改革の現地視察を実施した。

今回の視察は、御所南小学校、京都市子育て支援総合センター「こどもみらい館」、京都市教育相談総合センター「こども相談センターパトナ」の3ヶ所。それぞれ施設で担当者から取り組み状況の説明を受けながら各施設を見て回った。

最初の視察先、御所南小学校は、平成七年、中京区内の5つの小学校が統合し、新たに開校された。統合後、地域と家庭、学校が一体となって新しい学校を創造していこうと地域・保護者そしてボランティアで構成される地域学校協議会が設置された。その中に3つのコミュニティー委員会と文化・福祉・国際・学びなど12の部会が出来た。地域に住まいする伝統工芸職人の指導による、ものづくり体験などの事業を企画して、実施している。こうした地域ぐるみの活動は、たびたびマスコミにも取り上げられたため、子供を通学させたい保護者が多く、学校周辺の分譲マンション販売が好調など、思わぬ経済波及効果も生んでいる。

次の訪問先の「こどもみらい館」は、教育・福祉・医療の分野で緊密に連携をとりながら、保育所・幼稚園、私立・公立の垣根を越えて総合的に子育てを支援する施設として全国ではじめて開園された。ここでは相談・研究・研修・情報発信の4つの機能を柱に、多くの市民ボランティアによって支えられている。安心して子どもを産み、育てることの出来る環境を整備する一環として、子育てのあらゆる悩みに応えるとともに、保育士・幼稚園教員の共同研修・研究事業も行っている。また館内には、子どもたちの遊び場や図書館も併設され、連日多くの親子が集まり、交流の場ともなっている。

子ども相談センターパトナは、子どもたちの抱えるさまざまの悩みを解決するための施設である。臨床心理士やカウンセラーによるカウンセリングや電話相談を行い、不登校の子どもたちの活動の場「ふれあいの杜」が設置されている。そこでは小集団体験活動や学習活動を通じて、新たな人間関係を築き、学校・社会生活に適応し、いきいきとした生活が送れるよう専門家が的確な指導を行っている。

現在、京都市では桝本教育長(現市長)時代から、市民とともに進めている教育のまちづくりが次々と成果を挙げつつあり、こうした京都の教育改革は、文部科学省をはじめ、与野党の国会議員、全国の教育関係者からも注目をあび、視察希望者があい次いで、市教委は嬉しい悲鳴を上げている。

二ノ湯氏
全国市議会議長会顧問に就任

「第81回定期大会で顧問に選出された二ノ湯、小泉の両議員」

小泉内閣が進める地方分権改革の中で、三位一体という言葉は、中身の理解はともかく、国民の間に深く浸透した。その三位一体を中心になって推進しているのが、地方六団体である。

二ノ湯議員は、平成11年6月から平成13年5月までの2年間、市議会議長会第53代会長を歴任した。会長を退いてからは、相談役の立場で市議会議長会の運営に関わってきた。

議長会の規約では、会長経験者は市会議員に在籍している間は、相談役としての役職を与えられるが、市会議員をやめると自動的に相談役の職も消滅する。二ノ湯議員は平成16年6月、参議院に立候補したために、市会議員、相談役でなくなった。ところが、昨年の参議院議員選挙で、二ノ湯智、小泉昭男(神奈川県選出、第54代会長)の市議会議長会会長経験者が当選した。

議長会では2人の会長経験者に国政の場において、市議会議長会の充実、強化のために働いて貰いたいと考え、規約を改正して顧問に委嘱することを決定した。さる5月25日、第81回定期大会で、二ノ湯、小泉両参議院議員は、満場一致で顧問に選出された。

今後町村合併が進むにつれ、市議会議長会の存在は、日本の地方分権を進める上で、非常に大きいものがある。これからの2人の顧問の働きぶりが期待される。

クールビズは省エネ効果になるのか
パフォーマンスに終わるのでは!

国会では地球温暖化防止対策の一環として、夏季の期間中(毎年6月1日～9月30日まで)、国会内の室温を28℃に設定するため、上着、ネクタイを着用しなくてもいいことにした。これをクールビズと言うらしい。ただ本会議場においては従来通り、上着は必ず着用しなければならない。6月7日、参議院決算委員会が開かれた。出席していた議員はほぼ全員がネクタイ、上着を着用していたが、居並ぶ閣僚達は小泉首相をはじめ、全員がノーネクタイ、上着なしのラフなスタイル。厳粛な国会の風景を見慣れているため、なんとも締まらない。今一つ緊張感のない雰囲気であった。こんなパフォーマンスで省エネを促進するための世論を喚起するよりも、議員は他にやるべきことがあるのではないか。朝早く議員宿舎には、議員を迎えるための多くの大型乗用車がエンジンをふかして待っている。アイドリングストップすら実行されていないのが実情である。宿舎から党本部、議員会館、国会まで歩いて15分ぐらいの距離である。議員は先ず隗(かい)より始めよである。出来るだけ歩き、乗用車は大型を遠慮するなどやることはたくさんある。クールビズなどの見えすいたパフォーマンスでは、決して省エネ効果は発揮できないのではないか。自民党議員の多くが、小泉首相のやり方をパフォーマンス政治だと批判している。そんな議員が、自らパフォーマンスをしている。おかしいことである。

古都の力で美しい日本を取り戻そう!
「歴史的都市維持再生議員連盟」設立

京都に代表される古都の維持・再生に国家戦略として取り組もうと、伊吹衆議院議員や二ノ湯参議院議員らが設立準備を進めていた「歴史的都市維持再生議員連盟」(自公)の設立総会が、5月20日、盛会に開かれた。

参議院の各委員会の開催中だったが、32名もの国会議員が出席し、テレビや新聞などマスコミ関係者も多数詰めかけ、会場は熱気に包まれた。

挨拶に立つ伊吹衆議院議員

総会は、二ノ湯議員の司会で進められた。冒頭、伊吹議員が「伝統的な町並みが、『和を以て貴しとなす』などの日本の美しい文化を育んだ。その景観が失われつつある現在、国を挙げて後世に残す努力をしなければならない」と、議員連盟設立の経緯を説明した。続いて、会長に選任された森喜朗前総理大臣や、綿貫民輔前衆議院議長、冬柴鐵三公明党幹事長らがそれぞれ、国家戦略として歴史都市を守っていくべきとの決意を示す挨拶した。

その後、中央教育審議会会長の鳥居泰彦氏と都市再生戦略チームの伊藤滋氏による講演が行われた。両氏は、「日本は戦後、伝統的な景観の価値に気づかずに破壊してきたが、これからはそれを守り育てていくべきである。」という共通した認識を示した。特に伊藤氏は、「景観問題に中心的に活躍するNPOへの寄付の免税などの措置を実施すべきだ」などの具体策にも言及した。

その後の質疑応答では、各議員が、それぞれの地元の実情、取り組み、課題などを語り、短時間ではあったが活発な意見交換がなされた。

最後に、幹事長に選任された伊吹議員が「独自の努力をしている自治体を歴史的都市に認定し、そこに対して積極的に支援していくべきである」と締めくくった。従来の努力に加え、昨年から「国家戦略としての京都創成」を国に要望する京都市にとっても、大変心強いものであろう。

二ノ湯議員にも、京都市議出身の国会議員として、今後の活躍が大いに期待される。

二ノ湯議員、恩師・前尾先生の思い出「月刊自由民主」6月号に寄稿

自由民主党の機関誌「月刊自由民主」に「忘れがたき政治家」というテーマのシリーズ物がある。6月号に前尾繁三郎元衆議院議長を取り上げるとのことで、二ノ湯議員に対し、「月刊自由民主」の編集部から執筆の依頼があった。

二ノ湯議員は「私は前尾先生の秘書をしていたことは確かであるが、選挙区の秘書であり、しかも地元の大物秘書の秘書という立場であって、頻繁に前尾先生に接触した経験がない。まして昔の政治家は選挙区にめったに帰って来ることもなく、一年に一、二回という程度で、帰ってこられても、嵯峨の自宅に居られる時は、もっぱら読書三昧ということで話をする機会がなかった。先生のことなら他に適当な方々がいらっしゃる」と断ったが、編集部から「自民党の国会議員で秘書経験は貴方だけであるし、直接前尾先生と接触した経験をもつ人の前尾繁三郎論が欲しい」という強い要望で、二ノ湯議員は承諾した。

執筆後、二ノ湯議員は、「前尾先生との乏しい対話を思い出し、又選挙や青年研修会での記憶を必死になってたどって、なんとか400字詰原稿用紙14枚を書き上げた。出来上がった原稿を読むと、まだまだ文章が拙く、まさに冷汗ものであるが、私なりの前尾繁三郎論が書けた。」と安堵した様子であった。

事務所では、出来上がった「月刊自由民主」6月号を、前尾先生ゆかりの関係者に配布したが、まだ多少残っており、ご希望の方は事務所までご連絡下さい。そして、もし読者の中で、私は前尾先生とのこんな思い出を持っている、あるいは大変珍しい写真を保存している方があれば、後日、二ノ湯議員が、改めて前尾繁三郎論を書く時に参考にさせていただきますので、事務所にご一報下さい。

「月刊自由民主」6月号表紙

身辺雑記

一、中国の呉儀副首相が、小泉首相との会談予定を突然キャンセルして、帰国してしまった。しかも嘘の理由をつけて断るとは、失礼千万である。最近は中国によって日本政府が振り回されているような感じだ。政府の中国に対する毅然たる態度を望みたい。

一、永田町では平日毎晩のように、政治家の資金集めパーティーが、2つや3つ開かれている。会費は2万円で、議員宛にはご招待と判を押してある。いくらご招待と記してあっても、手ぶらで行けない。こんなパーティーに付き合っていたら、こちらの身が持たない。政治にカネがかかるのは十分理解できるが、パーティー券を買わされる企業から悲鳴が聞こえてきそうだ。

一、先日、同期の政治家のパーティー出席のため、初めて徳島市へ行った。名神―中国自動車道―明石大橋を経由して、約1時間50分で到着した。松山市から駆けつけた議員は、2時間30分程かかったと言う。改めて高速道路の有難さを知った。

一、平成13年9月に私が団長として京都市会議員の海外研修旅行を実施した。期間中の日曜日に、チャーターバスを利用して、市内観光をしたのは、無駄な支出ということで、先日、大阪高裁で、バス代一人当り三万二千円返還せよという判決が下りた。海外旅行そのものは違法ではないが、計画にないことを実施したのが悪いということか。最高裁で争うことは大変だということで、お金を市役所に返還した。

歩くことは健康の基本

第148回 みんなで歩こう湯歩会

- 日　　時：**6月26日(日)**
- 出発時刻：午前9時00分（時間厳守）
- 集合場所：JR花園駅前（小雨決行）
- コース：JR花園駅→双ヶ岡遊歩道→京福御室駅→仁和寺山門→仁和寺本堂→御室八十八ヶ所参詣→仁和寺山門前（解散）

● 新緑のさわやかな季節に、双ヶ岡遊歩道から御室仁和寺の眺めは素晴らしく、また道中には木陰が数多くあります。皆様方の健康維持のため、京都の四季を味わいながら楽しく歩き、汗をかいたあとの心地良さをいつまでも大切にしてください。

● 代表世話人　北村好司郎　☎075-313-8758
（当日）090-1140-4964

第147回 みんなで歩こう湯歩会（参加者83名）

国際会館大会議場にて

「えとす」購読のお願い
月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、
ぜひお申し込み下さい
年間購読料　1200円
郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会
── お問い合わせ先 ──
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228
ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com